

平成16年度科学研究費補助金（基盤研究（S））研究状況報告書

| | | | | | | | |
|---|--------------------|--|--------|----------------------|--------|-------------------|--------|
| ふりがな | | いしづか はるみち | | 所属研究機関・部局・職 | | 北海道大学・大学院文学研究科・教授 | |
| 研究代表者氏名 | | 石塚 晴通 | | | | | |
| 研究課題名 | 和文 | 寺院経蔵の構成と伝承に関する実証的研究 高山寺の場合を例として | | | | | |
| | 英文 | Positive Research in Regard to the Transmission and Makeup of Buddhist Scripture Collections – The Case of Kozanji – | | | | | |
| 研究経費 | | 平成14年度 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 | 総合計 |
| 16年度以降は内約額 金額単位：千円 | | 14,000 | 14,300 | 14,300 | 13,900 | 11,800 | 68,300 |
| 研究組織（研究代表者及び研究分担者） | | | | | | | |
| 氏名 | 所属研究機関・部局・職 | 現在の専門 | | 役割分担（研究実施計画に対する分担事項） | | | |
| 石塚 晴通 | 北海道大学・大学院文学研究科・教授 | 国語学・訓点語学 | | 統括・寺院経蔵論の構築 | | | |
| 宮澤 俊雅 | 北海道大学・大学院文学研究科・教授 | 国語学・文献学 | | 伝授関連資料の研究 | | | |
| 池田 証壽 | 北海道大学・大学院文学研究科・助教授 | 国語学・言語情報学 | | 古辞書関連資料の研究・データベースの構築 | | | |
| 白井 純 | 北海道大学・大学院文学研究科・助手 | 国語学・言語情報学 | | データベースの構築 | | | |
| 築島 裕 | 東京大学・名誉教授 | 国語学・訓点語学 | | 訓点資料の研究 | | | |
| 沼本 克明 | 広島大学・大学院教育学研究科・教授 | 国語学・訓点語学 | | 字音資料の研究 | | | |
| 当初の研究目的（交付申請書に記載した研究目的を簡潔に記入してください。） | | | | | | | |
| <p>高山寺経蔵本のデータベース化によって、仏教文献及び他分野文献の舶載状況、注釈活動における仏典と非仏典の相互利用、開祖明恵の文献の伝承と書写に伴う変容等、当時の諸学・諸芸の形作る相互依存関係を現存経蔵本及び旧蔵本から再現する。更に、それらの中世から現代に至る伝承（散佚を含む）を実証的に追跡調査することによって、寺院経蔵の全体像を具体的に明らかにし、寺院経蔵論のモデルケースとする。</p> | | | | | | | |

これまでの研究経過（研究の進捗状況について、必要に応じて図表等を用いながら、具体的に記入してください。）

平成 14 年度

本研究は、時代を越えた有機性を持つ寺院経蔵の実証的研究のモデルケースとして、既に代表者・分担者らが協力して多年の調査を進め成果を得て来た高山寺（京都市）経蔵を取り上げ、寺院経蔵の構成と伝承についての全体像を初めて実証的に明らかにすることをやっているものである。

本年度は 5 年計画の初年度に当たり、鎌倉時代以来の古目録類を改めて吟味し、全体像の把握に努めた。高山寺経蔵現蔵本及び日本国内や海外の諸機関に所蔵されている高山寺旧蔵本の原本調査を実施して、データベースを構築した。

また、中国・台湾の研究者を招いて、平成 14 年 10 月に札幌に於いて国際ワークショップ「典籍の国際的交流・受容（訓読）」を実施して、問題の所在の解明と研究の国際的協力を願った。その成果の一端を『典籍の国際的交流・受容（訓読）』として公刊し、併せて本研究のホームページに公開した（<http://www.lit.let.hokudai.ac.jp/kozanji>）。

平成 15 年度

1. 寺院経蔵における現地調査を、研究代表者・研究分担者及び研究協力者の参加を得て 2 回実施し、現存経蔵の把握と現存本相互の関係を更に明らかにすることに努める過程で、相当数の題未詳仏典の題名を決することを得た。
2. 東洋文庫、宮内庁書陵部、龍門文庫、京都大学、花園大学、大谷大学等の国内機関所蔵の高山寺旧蔵本の原本調査を実施することを得た。
3. 上海図書館（中国）に於て、高山寺旧蔵本全点の原本調査を行った。また、天津芸術博物館蔵敦煌本に混入せる日本写本の調査を行い、高山寺旧蔵本の有無を調査した。
4. 上記国内・海外の原本調査によって得られた知見を、データベースとして構築した。
5. Cultures of the Silk Road and Modern Science (Kyoto), 敦煌写本研究遺書修復及デジタル化国際研究会（北京）Digital Silk Road in Nara(Nara)等の国際会議及び国内専門学会である訓点語学会（松本）に於て、高山寺現蔵本旧蔵本を用いた研究発表を行った。
6. 高山寺典籍文書総合調査団の高山寺資料刊行の準備に協力した。
7. 中間報告書の編集を完了した。

特記事項（これまでの研究において得られた、独創性・新規性を格段に発展させる結果あるいは可能性、新たな知見、学問的・学術的なインパクト等特記すべき事項があれば記入してください。）

1. 高山寺における現地調査の原本照合によって、相当数の現存本と鎌倉時代以来の古目録との対応が明らかになった。
2. 高山寺経蔵における現地調査の原本照合によって、既刊目録の相当数の題末詳本の題名が明らかになった。
3. 既刊目録類のデータベース化により、現存本相互の関係の考察に多大な便宜が得られ、高山寺経蔵における現地調査の原本照合によって、相当数の僚巻・表紙等が判明し、書写伝承等の相互関係が明らかになった。
4. 高山寺旧蔵本の調査を、国内外に於いて組織的に進め、100点以上の原本調査を実施し、500点以上の引用を確認した。それらの内、相当数の古目録との対応が明らかになった。
5. 高山寺経蔵本は質的に高く、各時代の標準的写本・刊本を含むので、漢字字体規範データベースを作成する上で、有力な基本資料を構成している。これらを含め、漢字字体規範画像データベース化を進めている。
6. 古目録記載の高山寺旧蔵本の原本（『大師伝法灌頂』平安後期写本）を購入することを得て、研究の遂行の上で多大な便宜が得られた。

研究成果の発表状況 (この研究費による成果の発表に限り、学術誌等に発表した論文(発表予定のものを記入することも可能。)の全著者名、論文名、学協会誌名、巻(号)、最初と最後のページ、発表年(西暦)、及び国際会議、学会等における発表状況について記入してください。)

- ISHIZUKA Harumichi, IKEDA Shoju, SHIRAI Jun, TAKADA Tomokazu “The data-base focusing on the standard of writing Chinese Characters in Dunhuang manuscripts”, “Proceedings of the Nara Symposium for Digital Silk Roads”, National Institute of Informatics, 133-136, 2004
- 佐竹昭広・梶尾武・石塚晴通・上野英二・和田恭幸・中野真麻理『岩崎文庫貴重書書誌解題 IV 古写本之部・古刊本之部補遺』, 東洋文庫, 110 頁, 2004
- 石塚晴通・池田証壽・徳永良次「上海図書館蔵高山寺旧蔵本」, 『平成十五年度高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集』, 63-72, 2004
- 石塚晴通「異文化における漢字受容の諸問題」, 『韓国日語日文学会国際学術大会発表論文集』, 1-7, 2003, Seoul
- 石塚晴通編『典籍の国際的交流・受容(訓読)』, 北海道大学, 118 頁, 2003
- 石塚晴通・大槻信「勸修寺蔵大教王経経尊永承点」, 『訓点語と訓点資料』111 輯, 左 22-左 32, 2003,
- 石塚晴通「漢字文化圏の加點史から見た高麗口訣と日本語初期訓点資料」, 『口訣研究』8 輯, 111-128, 2002
- 石塚晴通「中国に伝存する日本古写仏典 高山寺旧蔵本を中心として」, 『中国に伝存の日本関係典籍と文化財』, 国際日本文化研究センター, 75-80, 2002
- 石塚晴通・池田証壽・白井純「漢字字體資料畫像數據庫」『国際敦煌写本研究, 遺書修復及数字化国際研討会(会議手冊)』, 196, 2003, 北京
- 池田証壽「篆隸万象名義データベースの改訂」, 『漢字文献情報処理研究』, 4 号, 1-4, 2003
- 池田証壽「高山寺蔵新訳華嚴経音義と宮内庁書陵部蔵宋版華嚴経」, 訓点語学会第 89 回研究発表会, 2003
- 池田証壽「高山寺蔵『高山寺聖教目録』(寛永本)について」, 『平成十四年度高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集』, 43-78, 2002
- 築島裕「平安次代における僧の教学生活 聖教類書写加點に従事した時刻, 年齢など」, 日本学士院論文報告, 2004
- 築島裕「高山寺蔵平安時代古訓点資料書目稿 第六篇(十四)」, 『平成十五年度高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集』, 9-28, 2004
- 築島裕「高山寺蔵平安時代古訓点資料書目稿 第六篇(十三)」, 『平成十四年度高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集』, 33-42, 2004
- 築島裕・沼本克明「胎蔵界自行次第」, 『高山寺古訓点資料第四』, 699-736, 2003
- 築島裕・沼本克明「阿弥陀念誦畧私記」, 『高山寺古訓点資料第四』, 737-756, 2003
- 沼本克明「梵語の四声点」, 『国語と国文学』, 89-9, 1-12, 2003
- ISHIZUKA Harumichi “Japanese manuscripts and forgeries intermixed among Dunhuang manuscripts”, “Cultures of the Silk Road and Modern Science”, 2003, Kyoto
- 沼本克明「漢字音研究の現在 漢音」, 『日本中国語学会第五十三回全国大会シンポジウム』, 2003
- 石塚晴通「关于漢語史研究資料以及敦煌寫本和日本訓点資料」, 漢語史・敦煌学国際学術研討会, 2002, 杭州